

法人化で新たに大豆、キャベツを始め、収益性アップ ～農事組合法人蛸草営農組合～

経営体の概要

現在：平成28年
 基幹作物：水稻、六条大麦、大豆、キャベツ
 経営面積：28ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

本地区は、兼業農家の割合が多く新規就農者がいない状況であった。このため、平成18年に集落営農組織を立ち上げ、さらに、組織の経営責任を明確化するなどを主な目的とし、平成24年、138戸で構成する「農事組合法人蛸草営農組合」を設立した。法人化により組合員が安心して農作業ができるよう、労災や民間保険にも加入し、適正・安全な経営を行なっている。
 現在、組合員全てが兼業農家である。

営農改善のポイント

①作物の変化と水管理

法人設立前は、水稻、六条大麦を作付けしていたが、収益性を高め、年間を通じた組合員の雇用を確保するため、法人設立後は、新たに、大豆、キャベツも栽培している。品質と収量確保で重要なキャベツの定植時や大豆の開花期（8月）には、給水栓から直接うね間かんがいを行うことにより、適時適切な用水管理を行っている。



水稻

②栽培技術の確立・向上

雑草抑制効果があるヘアリーベッチを全てのほ場で作付けし、田植前にすき込みを行うことで肥料費や除草剤費用の低減を図っている。ヘアリーベッチの播種には、麦、大豆の播種に使用している播種機をヘアリーベッチ用にも活用できるように改良して使用することで、農業用機械の汎用性を高めている。



六条大麦

③流通・販売の工夫

米の販売は、自治会を通じて注文をとり、法人で配達運搬を行うことで安定した販売先を確保している。ヘアリーベッチを作付けし、減農薬栽培で取り組んだ米は、味が良好で安心・安全な米として地元の人気も高い。
 現在、「ヘアリーベッチ米」として販売するため、包装容器の検討や試食品を作成してブランドの構築に向け取り組んでいる。



キャベツ

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：兵庫県神戸市、明石市、加古川市、三木市、加古郡稲美町
 受益面受：7,313ha
 事業期間：平成25～33年度
 事業目的：用水改良
 主要工事：ダム2箇所、揚水機場1箇所、用水路L=14.9km等

位置図（兵庫県）



<問い合わせ先>
 近畿農政局 農村振興部
 農村環境課 営農担当
 電話：075-451-9161
 （内線2452）

（平成28年度調査時点）